



2026年1月7日

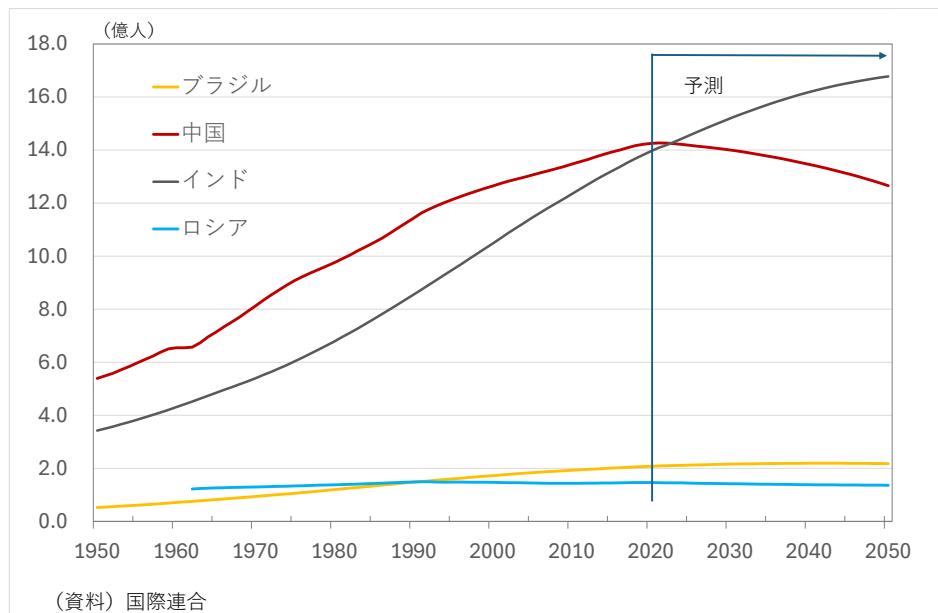
## 人口動態からみる BRICs の将来

公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部 上席研究員 森川 央

国際連合の人口予測（中位推計）によると、インドの人口は2023年に中国を抜き14億3170万人になった（1月時点）。2026年始めには14億7030万人に達しているとされている（図1）。中国の人口は単に世界第2位になっただけではなく、もう一つの大きな変化に見舞われている。人口の減少である。中国の人口は2021年に14億2678万人でピークを迎え、2026年には14億1446万人に減少、5年で1232万人減少している。これは東京都の人口（1425万人、2025年）に迫る数である。中国の人口減少は今後も続く模様で、2050年には12億6545万人と、26年比1億4900万人減少する。25年で1割減少することになる。

一方、インドでは人口の増加が続き2050年に16億7769万人、中国の人口の1.33倍になっている見通しである。26年比の増加率は13.4%になる。インドの人口がピークを迎えるのは2062年とされている。

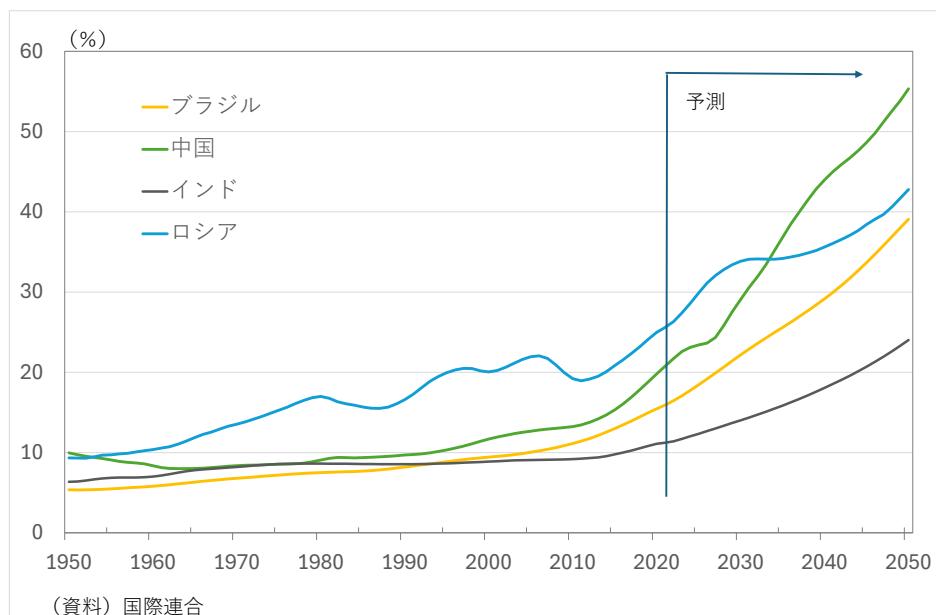
図1 BRICs の人口見通し



インドの優位性は年齢別人口構成でも明らかである。図2は高齢者（65歳以上）人口の20-64歳人口<sup>1</sup>に対する比率（高齢者扶養率 old-age dependency ratio）を示している。これをみると中国の高齢化は明らかで、扶養率は2025年の23.4%から2050年には55.3%に上昇する。特に2028年からの上昇スピードは毎年1%ポイント以上と高く、2050年までの平均は1.35%ポイントに及ぶ。図でも急こう配が長く続くことがわかるだろう。かたやインドの高齢者扶養率は、12.3%（2025年）から24.0%（2050年）に上昇するに過ぎない。

インドの存在感は、人口の大きさでも「若さ」の面でも他国を圧倒している。人口学者ポール・モーランドによると「人口とは軍事力であり経済力である」<sup>2</sup>。21世紀の第1クオーター（最初の25年）は中国が主役であったが、第2クオーターはインドの時代となるのだろう。

図2 BRICsの高齢者扶養率



BRICsといつても図1から明らかなとおりインドと中国という2大国に比べ、ロシアとブラジルの人口は大人と子供ほどの差がある。人口動態でも優位性を持っているとは言えない。中国ほどではないが、両国とも高齢化は急ピッチで進むからである。さらにブラジルとロシアは後発国の猛追を受けることになる。

<sup>1</sup> 従来、15-64歳人口を分母にすることが多かったが、各国で進学率が向上しているため、本稿では20歳以上の人口を採用している。

<sup>2</sup> [ポール・モーランド, 2023] p.21

後発国の中でも、インドネシアとナイジェリアだろう。両国の人口をみると、インドネシアはすでにロシア、ブラジルを上回っている（図3）。ナイジェリアはまさに現在上回りつつあるが今後の増加率は大きく、2041年頃にはインドネシアをも抜いてこれら4カ国で最大の人口となる可能性が高い。そして、高齢者扶養率をみるとインドネシアはインド並み、ナイジェリアに至っては2050年まで横這いという予想である（図4）。国民の「若さ」でも、ブラジル、ロシアを圧倒している。

図3 インドネシアとナイジェリアの人口見通し

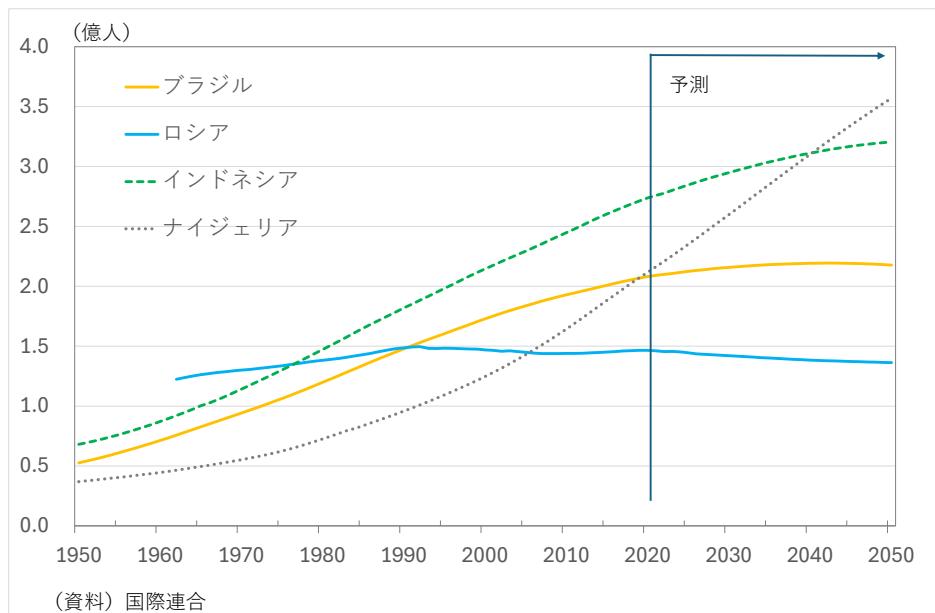
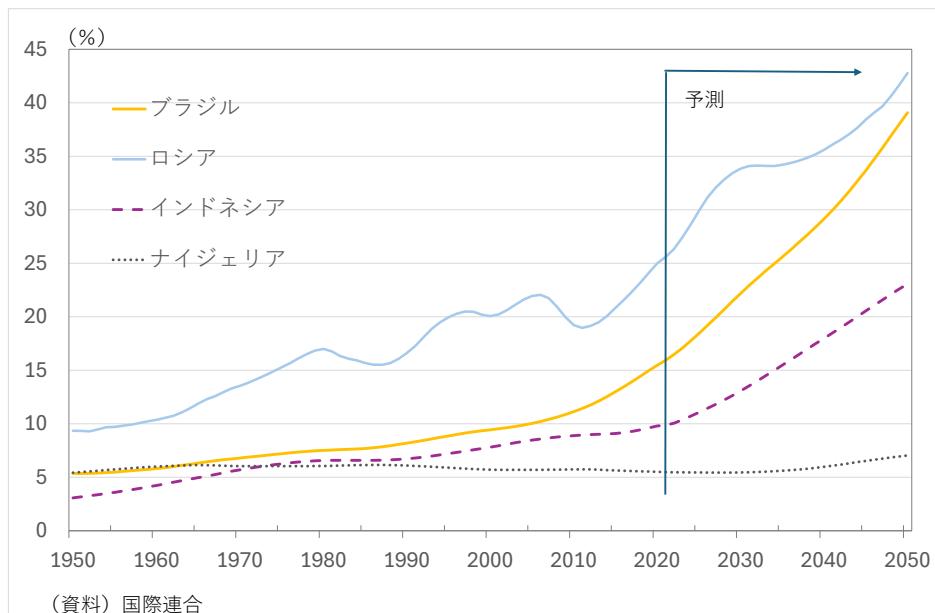


図4 インドネシアとナイジェリアの高齢者扶養率



もはや BRICs を先進国に対抗する新興国グループとしてひとまとめに考えることは適切ではない。それぞれが置かれた状況は大きく異なることに留意が必要であろう。

以 上

## 参照文献

ポール・モーランド. (2023). 人口で語る世界史. 文藝春秋.

Copyright 2026 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)  
All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <https://www.iima.or.jp>

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。